

第 11 回 通 常 総 会 記 録

日 時 昭和55年 6 月 21 日 午後 1 時 30 分

場 所 富 山 市 農 協 会 館

昭和44年の高度経済成長の中に設立した農村医学研究会も第11回の総会を迎えることが出来ました。

日頃多忙のなか研究を続けられた会員各位並びに関係諸機関のご支援、ご協力に感謝を申し上げる次第であります。

本研究会は健康で明るい豊かな農村社会づくりに寄与するという理念を根底として発足し、変貌する農村、高令化する社会の到来にも大きく貢献しえたと確信します。また今後も、さらに新しい構想と会員各位並びに関係諸機関のご協力のもとに、本研究会の目的推進のため努力を重ねたいと存じます。何卒、倍旧のご援助とご協力をお願い申し上げます。

尚実績につきましては、本誌第12巻で発表することが出来ました。

この度第11回の通常総会を終了いたしましたのでその内容をご報告申し上げます。

本総会は35名の出席と53委任状で定刻に開催され、議案審議もとどこおりなく進められ、富山大学助教授中藤康俊先生の特別講演を拝聴し無事総会を終了いたしました。

以下総会の議事の概要と、資料を掲載し参考に供します。

議 事 の 概 要

- 会 員 総 数 182名うち出席者35名、委任状53名
 - 会 長 接 拶 豊 田 文 一
 - 議 長 選 出 厚生連高岡病院副院長広島清一議長となる。
 - 議 事 録 署 名 者 富 山 市 林 隆 夫 魚 津 市 友 岡 清
 - 書 記 片 岡 広 明 嶋 田 俊 治
 - 議 事
- 第 1 号 議 案 昭和54年度事業報告書、財産目録、収支決算報告承認について
- 第 2 号 議 案 昭和55年度事業計画及び収支予算案承認について
- 第 3 号 議 案 役員の一部改選について

特 別 講 演

富山大学助教授 中 藤 康 俊 氏

演 題 「都市近郊農村の現状と課題」 講演録1頁～5頁に掲載

役 員 名 簿

理 事			
氏 名	新 役 員 氏 名	役 職	
豊田文一 本多重雄 金山保 沖野清作 菅野利克 岸岡保 渡辺正男 末永良治 越山健二 石田礼二 寺中昭 長谷田祐作 吉崎亨 西北能正一 林川鉄人 一柳兵衛 今井行雄 松井信勝 吉田一男 竹部喜代子 (21名)	尾山京三 中川秀幸 広瀬龍夫 中藤康俊 水野甚之輔 (23名)	富山県農村医学研究所長 県厚生部次長 県医務課長 県公衆衛生課長 県農産普及課長 富山保健所長 氷見保健所長 富山医科薬科大学教授 県環境衛生課主幹 上市厚生病院長 富山市民病院長 城端厚生病院長 富山市民病院五福分院内科部長 県医師会理事 西能整形外科病院長 北川内科クリニック院長 厚生連高岡病院長 厚生連滑川病院長 富山大学助教授(新任) 県厚生連会長 県農協中央会副会長 県農協青年組織協議会長 県農協婦人組織協議会長	
監 事			
水木正雄 岡西一英 (2名)	(2名)	(元) 砺波厚生病院長 高岡市農林部長	
顧 問			
中堀幸吉 渡辺健 田上孝 古川康 西本武温 吉本力蔵 荒野太実 福島一作 若林章雄 二 (10名)	浅名源重 本多幸男 三橋昭男	富山県知事 // 市町会長 // 町村会長 // 医師会長 // 厚生部長 // 農業水産部長 // 農協中央会長 // 信連会長 // 経済連会長 // 共済連会長	

業 務 報 告 書

昭和54年4月1日～昭和55年3月31日

昭和54年度終了にあたり、ここに事業の概要ならびに決算関係諸表についてご報告申し上げます。

昭和44年、本研究会創立以来11年を閲しました。この間、富山県、各農協連の絶大なご援助と会員各位のご協力によりまして、本県におきます農山村を中心とした医学的調査研究、さらにこれを基礎とした各地域の健康管理に努力し、少なからざる成果をあげてきました。

本年度は、昨年に引き続き、糖尿病の疫学的調査と肝機能の調査研究を実施し、他方、現在世界的に推進されている「プライマリ・ヘルス・ケア」の考え方を導入し、農山村地域の健康管理方式の策定について検討を開始しました。すなわち人々の健康を起点として地域環境との相関において健康を守る運動を展開しております。このために検診のみならず、現地における保健指導および啓蒙のための健康会議、その他の集会を実施してきました。

また、農村医学は社会医学の分野であり、医学のみでは解決されない問題もかかえており、今年度は環境調査、あるいは農業労働の変化に伴う諸因子の究明にも検討を加え、さらに今後は社会学的見地についても、研究の歩を進めたいと考えております。

ここに本研究会第11年度終了にあたり、会員各位のご理解とご協力に深謝し、次年度も農山村の人々の健康を守るために一層の努力を傾注する所存であります。

主 なる 行 事

年 月 日	主 なる 行 事
54. 4. 13	専門委員会 肝機能調査について
54. 5. 1	役員会 昭和54年度事業計画について、総会附議事項について
54. 5. 10	編集委員会 雑誌編集
54. 5. 25	" "
54. 6. 2	第10回通常総会 於厚生連高岡病院講堂
54. 6. 24	農民の健康会議 八尾町農協 200名出席
54. 8. 9	黒部市 肝機能調査採血
54. 8. 10	高岡市 "
54. 8. 13	大山町 "
54. 8. 24	井波町 "
54. 8. 29	氷見市 "
54. 8. 20	健康を守るつどい 入善町農協 120名出席
54. 8. 23	" 婦中町鶴坂農協 150名出席
54. 9. 6	役員会 日本へき地医療研究会の開催について、研究の経過について 徳島の学会について
54.10.11～12	日本農村医学会総会 豊田会長、越山理事、石田理事、林理事 出席
54. 11. 17	農民の健康づくり 上市町農協 120名出席
54. 11. 19	" 立山町農協 120名出席
54. 11. 27	役員会 日本へき地医療研究会開催について、研究事項中間報告
54. 11. 20	大山町 肝機能調査採血（第2次）
54. 11. 21	黒部市 "
54. 11. 22	氷見市 "
54. 11. 26	高岡市 "
54. 11. 27	井波町 "
55. 2. 5	役員会 雑誌編集について、調査研究事項中間報告について 日本へき地医療研究会について
54. 2. 26	農民の健康会議 砺波市農協 120名出席
55. 3. 13	編集委員会 雑誌編集
55. 3. 25	専門委員会 肝機能、糖尿病調査について
55. 3. 28	農民の健康会議 南砺農協 150名出席

財 産 目 録

昭和55年3月31日

(単位：円)

内 訳	金 額
預 金	40,922
"	40,922

富山県農村医学研究会

昭和54年度収支決算書

自昭和54年4月1日～至昭和55年3月31日

(単位：円)

項	目	予 算 額	実 績	差 引 増 減
会 員 収 入		85,000	64,000	△ 21,000
	会 費	85,000	64,000	△ 21,000
援 助 収 入		4,700,000	4,700,000	0
	助 成 金	1,800,000	1,800,000	0
	特 別 負 担 金	2,900,000	2,900,000	0
雑 収 入		28,245	34,112	5,867
	雑 収 入	28,245	34,112	5,867
前 期 繰 越		36,755	36,755	0
収 入 計		4,850,000	4,834,867	△ 15,133
会 議 費		540,000	494,495	△ 45,505
	総 会 費	160,000	105,440	△ 54,560
	役 員 会 費	180,000	222,580	42,580
	専 門 委 員 会 費	100,000	65,300	△ 34,700
	編 集 委 員 会 費	100,000	101,175	1,175
事 業 費		3,925,000	4,014,790	89,790
	研 究 調 査 費	2,025,000	2,033,020	8,020
	研 究 集 会 費	120,000	100,650	△ 19,350
	会 誌 発 行 費	1,700,000	1,805,000	105,000
	通 信 費	50,000	58,120	8,120
	消 耗 品 費	20,000	18,000	△ 2,000
	備 品 ・ 什 器	10,000	0	△ 10,000
旅 費 交 通 費		250,000	160,860	△ 89,140
	旅 費 交 通 費	250,000	160,860	△ 89,140
事 務 費		120,000	120,000	0
	事 務 費	120,000	120,000	0
雑 費		10,000	3,800	△ 6,200
	雑 費	10,000	3,800	△ 6,200
予 備 費		5,000	0	△ 5,000
	予 備 費	5,000	0	△ 5,000
計		4,850,000	4,793,945	△ 56,055
次 期 繰 越			40,922	40,922
支 出 計		4,850,000	4,834,867	△ 15,133

昭和55年度事業計画

昭和55年4月1日～昭和56年3月31日

1. 農村の職業性疾患の調査研究
 - 農村の地域環境の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
 - 農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究，とくに騒音及び振動の影響に関する研究及び農業機械による災害の実態調査
3. 健康管理についての調査研究
 - 農民の健康状態の把握と保健指導
 - 農民の健康管理の調査研究
 - 農民の成人病実態調査とその対策に関する検討
 - 農民の糖尿病の調査研究と肝疾患の調査研究
4. 農民の健康会議の実施
5. 農村の特殊疾患の調査研究
 - 伝染病，風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
6. 農村における社会医学的研究
 - 社会環境の変動による農民の健康に及ぼす影響についての調査研究，都市近郊，農村の社会医学的研究
7. 環境汚染と農村における健康障害についての調査研究
8. 乳幼児ならびに学童に対する健康対策
9. 機関誌の発行
10. その他目的達成に必要な事項

富山県農村医学研究会

昭和55年度収支予算書

自 昭和55年4月1日～ 至 昭和56年3月31日

(単位：円)

収 入 の 部			
項 目	予 算 額	内 容	
会 費 収 入	76,500		
会 費	76,500	153人×500円	
援 助 収 入	5,200,000		
助 成 金	1,800,000	県費助成	
特 別 負 担 金	3,400,000	農協各連助成金	
雑 収 入	22,578	預 金 利 子	
雑 収 入	22,578		
前 期 繰 越	40,922		
合 計	5,340,000		

支 出 の 部			
項 目	予 算 額	内 容	
会 議 費	864,000		
総 会 費	160,000	会場借上料, 資料代	
役 員 会 費	504,000	年6回会場借上料15,000円×6回 役員会出席旅費 3,000円×23人×6回	
専 門 委 員 会 費	100,000	委員会開催費用	
編 集 委 員 会 費	100,000	会誌編集委員会費用	
事 業 費	4,191,000		
研 究 調 査 費	2,051,000	職業性疾患調査他 糖尿病, 肝機能調査等	
研 究 集 会 費	160,000	日本農村医学会研究集会参加費 40,000円×4人	
会 誌 発 行 費	1,900,000	年1回 500部	
通 信 費	50,000	電話代, 郵便代	
消 耗 品 費	20,000	事務用消耗品代	
備 品 ・ 什 器	10,000		
旅 費 交 通 費	150,000		
旅 費 交 通 費	150,000	県内, 県外旅費	
事 務 費	120,000		
事 務 費	120,000	月10,000円×12ヵ月	
雑 費	10,000		
雑 費	10,000		
予 備 費	5,000		
予 備 費	5,000		
合 計	5,340,000		

望まれる調査研究事項

1. 農夫症、ビニールハウス病等の職業性疾患について
2. 農業用機械、自動車等による産業災害に関する調査研究
3. 労働時間、休憩時間、作業強度、作業姿勢等の健康におよぼす影響についての調査研究
4. 農民の年齢、性その他の身体的諸条件に応じた作業法（たとえば婦人労働、老人労働など）についての調査研究
5. 農民の使用する毒物、劇物、農薬等に関する中毒学的試験および検査ならびに安全使用法、健康におよぼす影響等必要な調査研究
6. 人畜共通伝染病についての調査研究
7. 農民の健康状態の把握とそれに応じた保健指導、医療確保（医療施設の整備、医師等の医療従事者の確保）など、農山村の健康管理についての調査研究
8. 衣生活および住生活、活動と休養、体格と機能の生理衛生ならびに健康増進方法についての調査研究
9. 農民の食生活の実態および米、塩等、農民が多量に摂取する食品の栄養学的研究
10. 農山村における水道、下水道、汚物処理、そ族こん虫等の環境衛生に関する調査研究ならびに住宅その他地域計画の保健衛生に関する分野の調査研究
11. 農村保健に関する衛生統計、社会統計等の諸統計や各種データ収集、解析および資料の編さん
12. 伝染病、風土病および農村特有の多発性疾患の疫学について
13. 農村における社会医学的問題の調査研究
14. 農村における人口動態、人口移動、人口年齢構造など人口現象について
15. 環境汚染と農村における健康障害についての調査研究
16. その他農山村保健の推進のため必要な調査研究

投 稿 規 定

募 集 原 稿 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

投 稿 の 資 格 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

原 稿 の 送 り 先 富山県農村医学研究会事務局宛（富山市新総曲輪2番21号 富山県厚生連内）

投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

論文原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま（Pasteur, Prosigmin 等）とし、動植物名は日本名の次に学名（ローマ字Mocacus rhesus, 山椒藻Salvinabatah 等）を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートルm、センチメートルcm、グラムg、キログラムkg等。
3. コンマ（,）ピリオド（.）コロロン（:）ゴシックの使用等にご注意下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。（図表は、特殊なものを除いては、出来あがり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。）図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記（朱記）して下さい。

無 料 掲 載 原稿用紙20枚（刷上がり5頁）までとします。ただし挿入図、附表を含みます。

有 料 掲 載 超過頁の印刷代、図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

- 文 献**
1. 雑誌の場合 著者名、標題名、雑誌名（雑誌指定の略号）、巻数（号数）、頁一頁、発行年月（昭52. 5のごとく。）
 2. 単行本の場合 著者名；標題名、発行所、発行地、発行年月（必要ならば引用の個所の頁を最後に）

別 刷 別刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

編 集 後 記

農村医学研究会が発足したのは昭和44年であり、研究会誌も毎年回を重ね順調に発刊されて12号となった。多くの研究業績が集まり、この種の雑誌では全国的にも高い評価が得られるものではないかと自負している。

時代が激動し激変している中で、研究内容も常に農村や農家、農民を主体とし、その流れの中での業績が積み重ねられている。

年度毎の研究目標も貧血、糖尿病、肝障害等に移行し、検診事業や健康管理の研究も各分野ですすめられ、健康や疾病の推移も報告され、貴重な文献資料となるであろう。

この研究会は直接医療にたずさわる各専門の人たちや、それをお世話する農業団体、医療サービスを受ける農村の人たちが直接参加している事に大きな意味があり、その点ではユニークなものであるといえる。その意味からも従来にもまして各部門からの幅広い研究の積み重ねを期待したいものである。

(K, K)

編 集 委 員 越山 健二、長谷田祐作、北川 鉄人

富 山 県 農 村 医 学 研 究 会 誌 第12巻 昭和56年3月25日印刷・昭和56年3月31日発行
富山市新総曲輪2番21号・富山県厚生連内 電 話 富山(0764)45-2307
編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 岩 井 久 作
印刷所 菅野印刷興業株式会社 富山県黒部市三日市 電話(0765)54-0112
